

(別記)

尾張旭市地域農業再生協議会水田フル活用ビジョン

1 地域の作物作付の現状、地域が抱える課題

本地域における基幹作目は、水稻を主体に果樹（いちじく）、露地野菜があり、何れも規模零細な家族経営である。担い手への農地集積は進んでいるが、一方で農業従事者の高齢化や、不作付地の拡大、宅地化等により水稻作付面積の維持が課題となっている。

2 作物ごとの取組方針等

(1) 主食用米

良質な米づくりを目指して適地適作を基本に銘柄産地の育成と、土づくり、適切な栽培管理、適期収穫、適切な乾燥調製を図る。また、地域ぐるみの農地の利用集積を図るなどにより、高性能農業機械、基幹施設の効率的利用により生産コストの低減を図る。

(2) 非主食用米

ア 飼料用米

主食用米の需要減が見込まれる中、飼料用米を転作作物に位置づける。産地交付金を活用し、地域の栽培指針に準じた施肥管理、適切な除草剤施用、土壤改良資材の施用等品質向上の取組みを推進する。また、生産性の向上や品質向上、収量増加を目的として、疎植栽培、肥料の低減化、GAPの導入、新たな品種の導入等を目指す。

イ 米粉用米

地域の栽培指針に準じた施肥管理、適切な除草剤施用、土壤改良資材の施用等品質向上の取組みを推進する。

(3) 高収益作物（野菜等）

ア 野菜

米の生産調整等により、非主食用米同様、水稻からの転作を図っており、近年は増えつつある。また、限られた優良農地の中で地域の実情に即した野菜の生産振興を図るため、プチヴェールなどの特産品の増産、栽培技術の改善を推進し野菜生産の安定を図る。

イ いちじく

現在は稲葉地区の約1haで栽培されているが、短期間で生産の改善や果実需給の調整を図ることは困難である。生産の誘導と需要動向に促した高品質果実の生産を図り、優良品種の導入、担い手農家の育成と経営の合理化などを推進する。

(4) 畑地化の推進

前年度の交付対象水田において、野菜や果樹等の畑作を前提とした畑地化を推進する。

3 作物ごとの作付予定面積

作物	平成 29 年度の作付面積 (ha)	平成 30 年度の作付予定面積 (ha)	平成 32 年度の作付目標面積 (ha)
主食用米	44.3	44	43.5
飼料用米	8.1	7.1	7.4
米粉用米	0.4	0.4	0.4
新市場開拓用米	-	-	-
WCS 用稲	-	-	-
加工用米	-	-	-
備蓄米	-	-	-
麦	-	-	-
大豆	-	-	-
飼料作物	-	-	-
そば	-	-	-
なたね	-	-	-
その他地域振興作物	2.8	2.82	2.85
野菜	1.8	1.82	1.85
果樹	1	1	1

4 課題解決に向けた取組及び目標

整理 番号	対象作物	用途名	目標	目標値	
				現状値	目標値
1	飼料用米・米粉用 米	飼料用米・米粉用米の生産 性・品質向上等に向けた取組	飼料用米取組面積 米粉用米取組面積 計	(29 年度) 5.7ha (29 年度) 0.4ha (29 年度) 6.1ha	(32 年度) 5.55ha (32 年度) 0.35ha (32 年度) 5.9ha
2	飼料用米	飼料用米のコスト低減等に向 けた取組	取組面積	(29 年度) 0ha	(32 年度) 0.3ha
3	高収益作物	高収益作物（野菜、果樹）	野菜取組面積 果樹取組面積 計	(29 年度) 1.7ha (29 年度) 1.0ha (29 年度) 2.7ha	(32 年度) 1.75ha (32 年度) 1.0ha (32 年度) 2.75ha
4	飼料用米 (ゆめまつり)	飼料用米の生産における品種 「ゆめまつり」の導入	導入面積	(29 年度) 2.0ha	(32 年度) 2.5ha

※ 必要に応じて、面積に加え、当該取組によって得られるコスト低減効果等についても目標設定して下さい。

※ 目標期間は3年以内としてください。

5 産地交付金の活用方法の明細

別紙のとおり